

広報ただみ診療所

朝日診療所
所長

わかやま たかし
若山 隆



お盆中の新聞記事で、只見町が新型コロナウイルスワクチン2回接種済みの方の割合が89%となっており、福島県内で一番！となっていました。すごいですね！この文章を書いている頃は日本中で新型コロナウイルス感染者数が過去最多を更新している状況です。しかし猛威をふるうデルタ株に対しても、ワクチンはしっかり重症化・死亡を防いでくれます。感染する方はでるかもしれませんが、マスク・手指消毒などの基本的な感染対策を続けておけば、過度に恐れる必要はないでしょう。

今回は胃カメラ検診のご案内をしたいと思います。コロナも厄介ですが、胃がんの早期発見・早期治療もとても重要です。朝日診療所ではしっかり感染予防対策をとったうえで胃カメラを行うので、対象の方（町から通知があった方）はぜひご検討ください。

対象者：50歳以上の方で、2022年3月31日を基準日として偶数年の方

対象の除外となる方：血液サラサラにする薬を飲んでいる方、胃の病気で治療中の方・胃の手術を受けたことがある方、呼吸不全のある方、心疾患の持病のある方 など

費用：3000円

期間：2021年9月～11月中（予定）

電話連絡先：朝日診療所は 0241-84-2221（9時～16時の間）

地域おこし協力隊として Vol.81

「只見暮らし1年生」

只見町
教育振興協力隊
おち
越智めぐみ



只見高校生に向けた公営塾「心志塾」の講師として昨年の11月に只見に来て、あっという間に半年以上が過ぎました。冬の雪の多さなど、慣れないこともありましたが、周りの方があたたかく支えてくださったおかげです。この場をお借りして感謝をお伝えいたします。

さて、この度私生活で大きな変化がありました。住まいを町営住宅から、空き家に移動したのです。実際に暮らすにあたって、空き家の物品の整理をしていたのですが、只見の重要文化財である仕事着や民具が出てきたり、食事作法について伝えられた巻物、前天皇皇后陛下の若いころの写真が出てきたりするなど、普通に暮らしては目にすることのできない、多くの貴重なものに出会うことができました。これらの品々を見ると、町や人、歴史とのつながりを強く感じ、大切に次の世代に受け継いでいきたいという気持ちが大変強くなりました。また、以前住まわれていた方が詠まれた俳句も多く残されていました。文字とは不思議なものです。実際にお会いしたことがないにも関わらず、人柄や感じ方を辿ることができる気がして、心があたたかくなりました。

ご近所の皆様も温かく迎えてくださり、この新たな場所で充実した日々を過ごしています。

昨年度から、只見高校では町の課題を見つけ、その解決策を考える「総合的な探究」の時間という授業が始まりました。その中で、町の空き家問題について興味を持ち、空き家の活用方法を真剣に考える高校生も多くいます。幸い、私は地域おこし協力隊として「教育」という分野から高校生と関わることのできる立場にあります。只見町で生まれ育ってきた生徒たち、そして他の地域からやってきた山村教育留学生たち若い世代に、実際に空き家で暮らしてみte感じたことや気付いたことを伝え、これからの未来を担う若い世代の人たちに知ってもらい、共に考えることで明るい街の未来を切り拓くお手伝いをしていけたらと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いたします。